

当院でのSETを利用したリハビリテーションについて

増田 和人 (増田 医院)

第19回JCOA学会京都 2006.06.17

調査対象

調査期間： 2005年6月～8月

対象者： 腰痛、膝痛を主訴に来院しリハビリテーションを行った12名

疾患： 変形性膝関節症、腰椎椎間板ヘルニア、変形性腰椎症、脊椎すべり症
骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折、頸部・腰部脊柱管狭窄症、(脳梗塞)片麻痺
坐骨神経痛、胸腰椎前縦靱帯骨化症、頸椎骨軟骨症など

年齢： 48歳～85歳(平均年齢71.4歳)

性別： 男性4名、女性8名

調査方法

膝伸展筋力測定

OG GIKEN MASUCULATOR
GT-30 で2回測定して大きい値

片脚起立時間

1分間に維持できる秒数を測定

椅子からの立ち座り
回数

30秒間における立ち座りの回数

SETのシステムとその方法



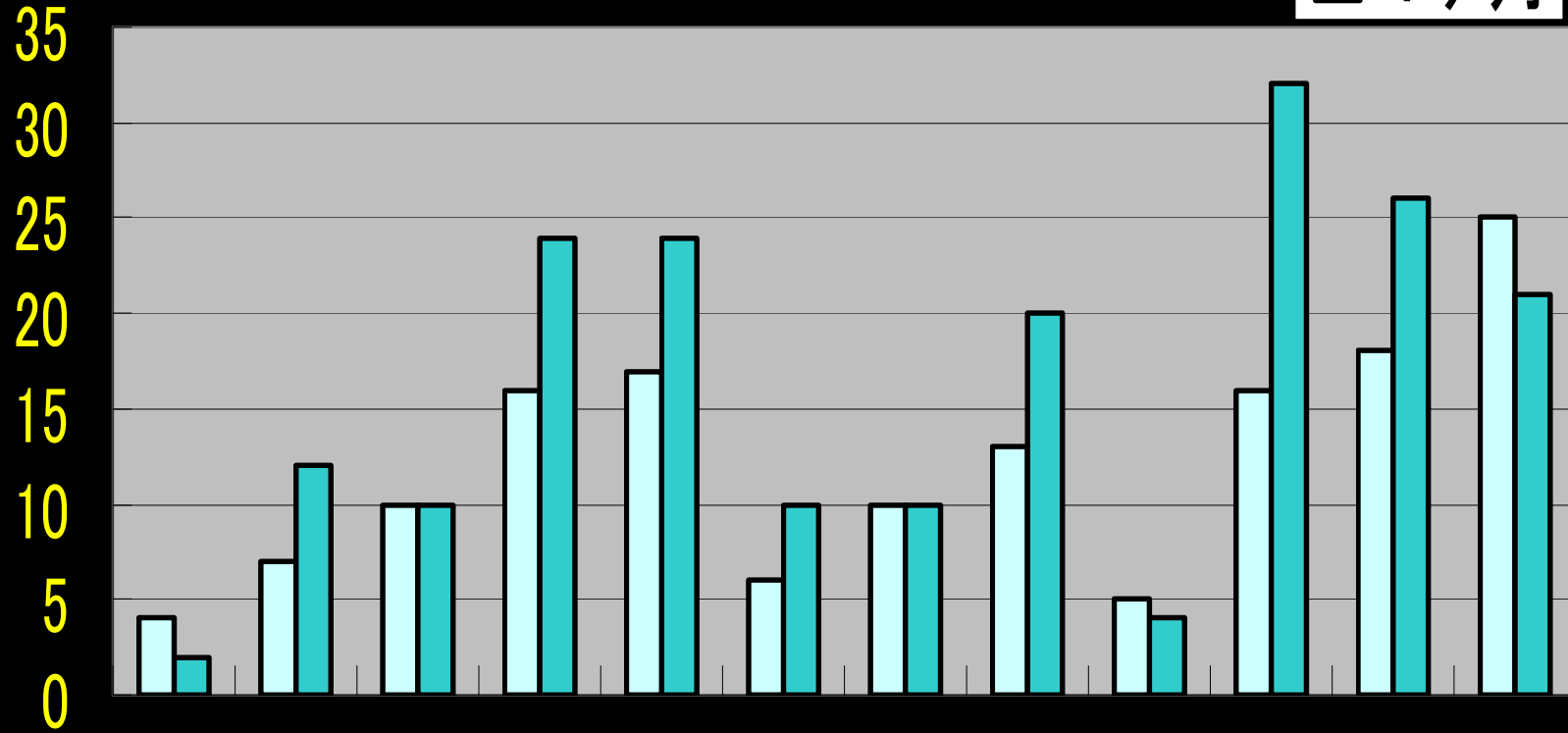
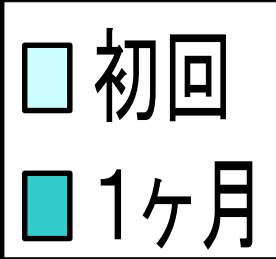
OG GIKEN
MASUCULATOR
GT-30
(膝伸展筋力測定装置)





膝伸展筋力(右)

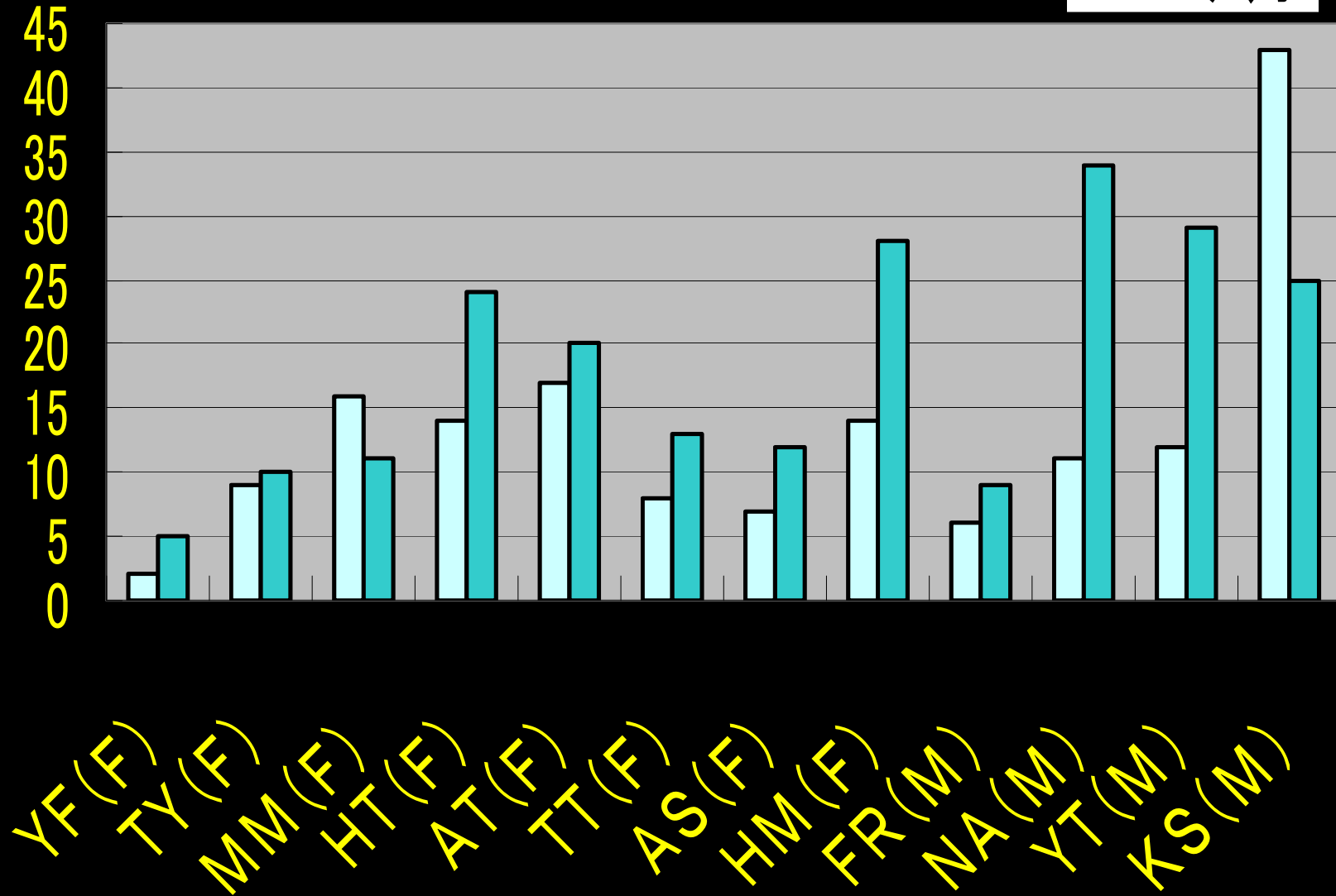
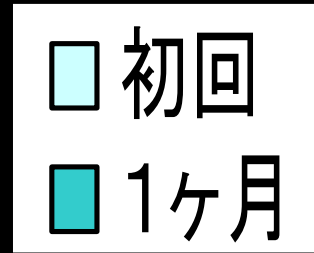
Kg



YF(F) TY(F) MM(F) HT(F) AT(F) TT(F) AS(F) HM(F) FR(M) NA(M) YT(M) KS(M)

膝伸展筋力(左)

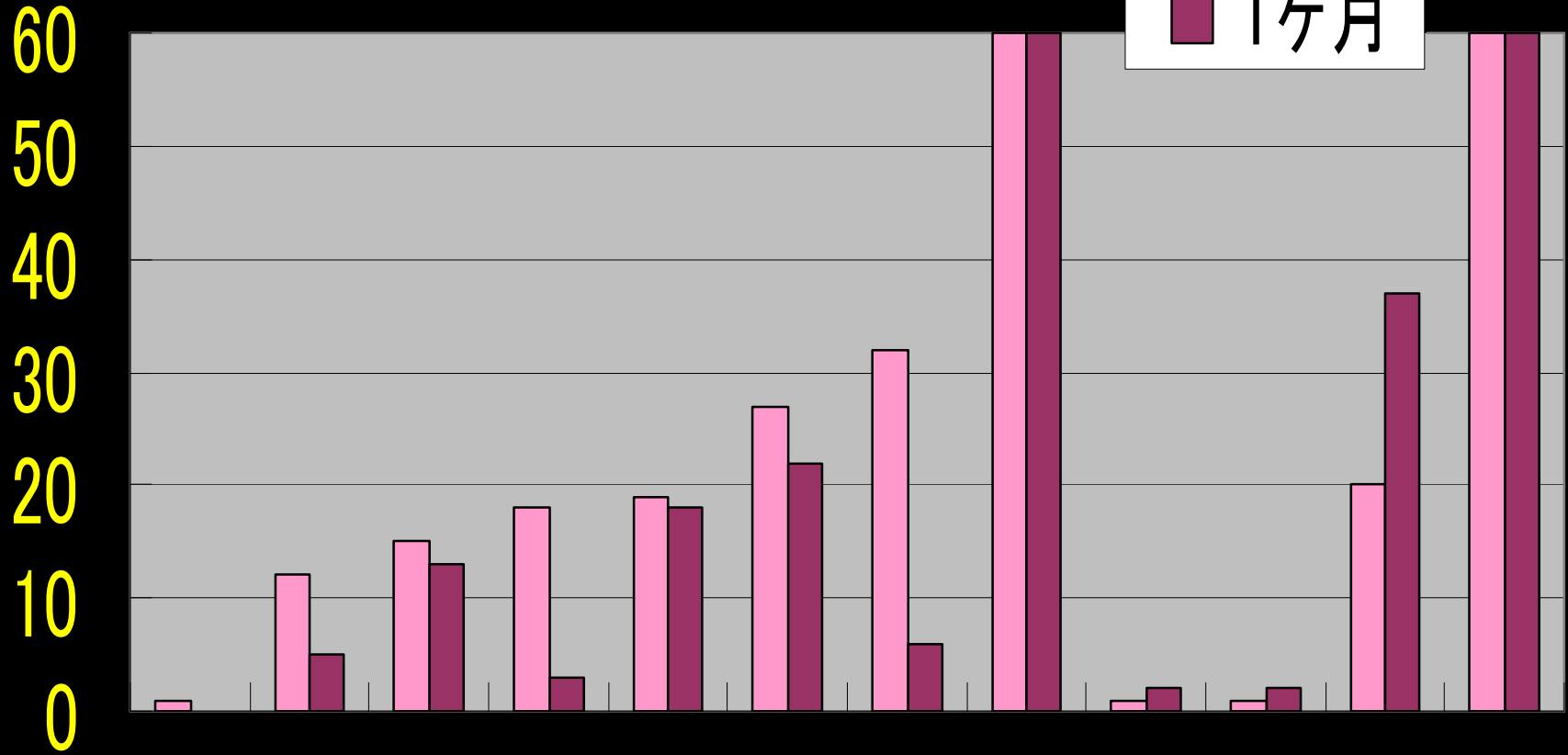
Kg



片脚起立(右)

秒/分

初回
1ヶ月



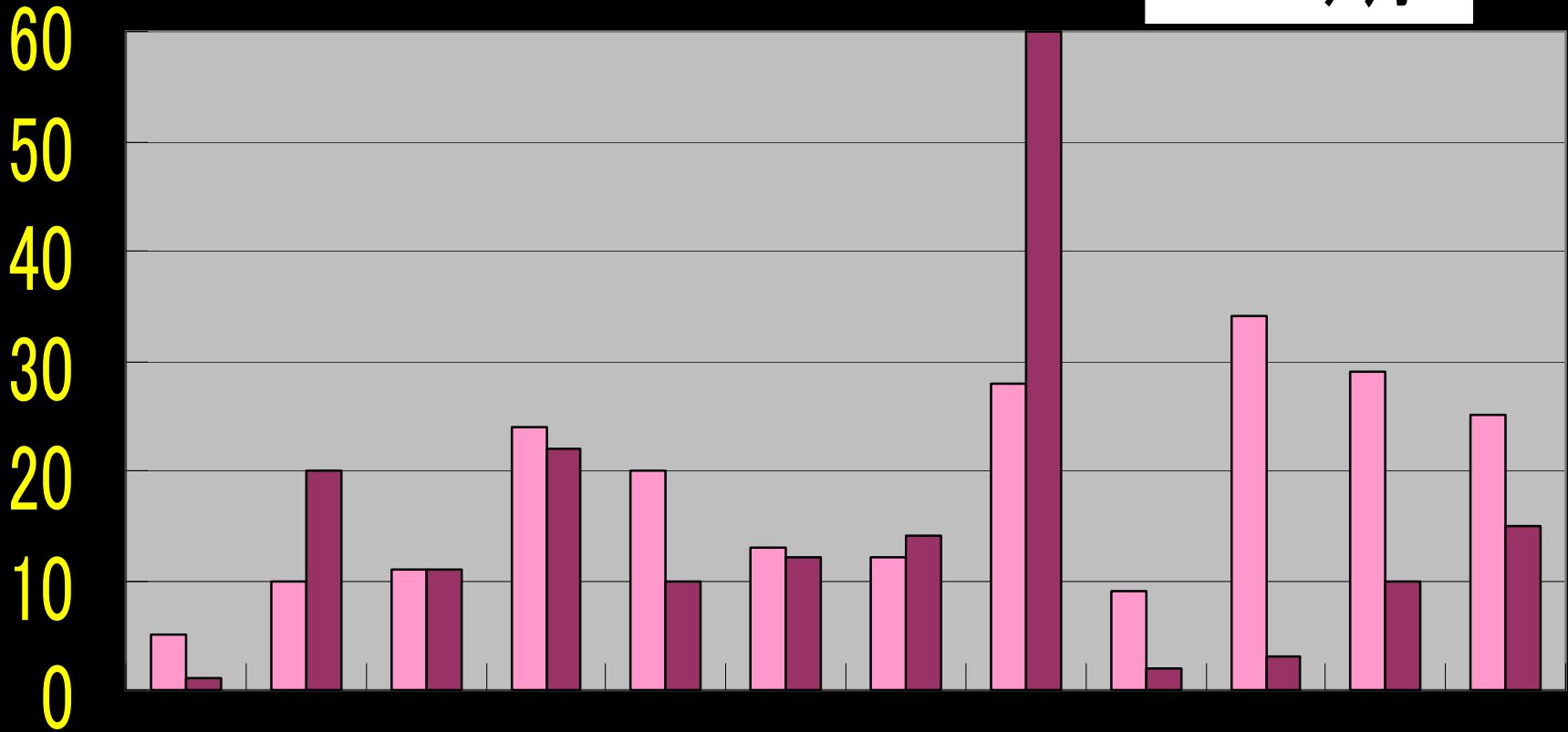
YF(F) TY(F) MM(F) HT(F) AT(F) TT(F) AS(F) HM(F) FR(M) NA(M) YT(M) KS(M)

片脚起立(左)

秒/分

初回

1ヶ月



YF(F) TY(F) MM(F) HT(F) AT(F) TT(F) AS(F) HM(F) FR(M) NA(M) YT(M) KS(M)

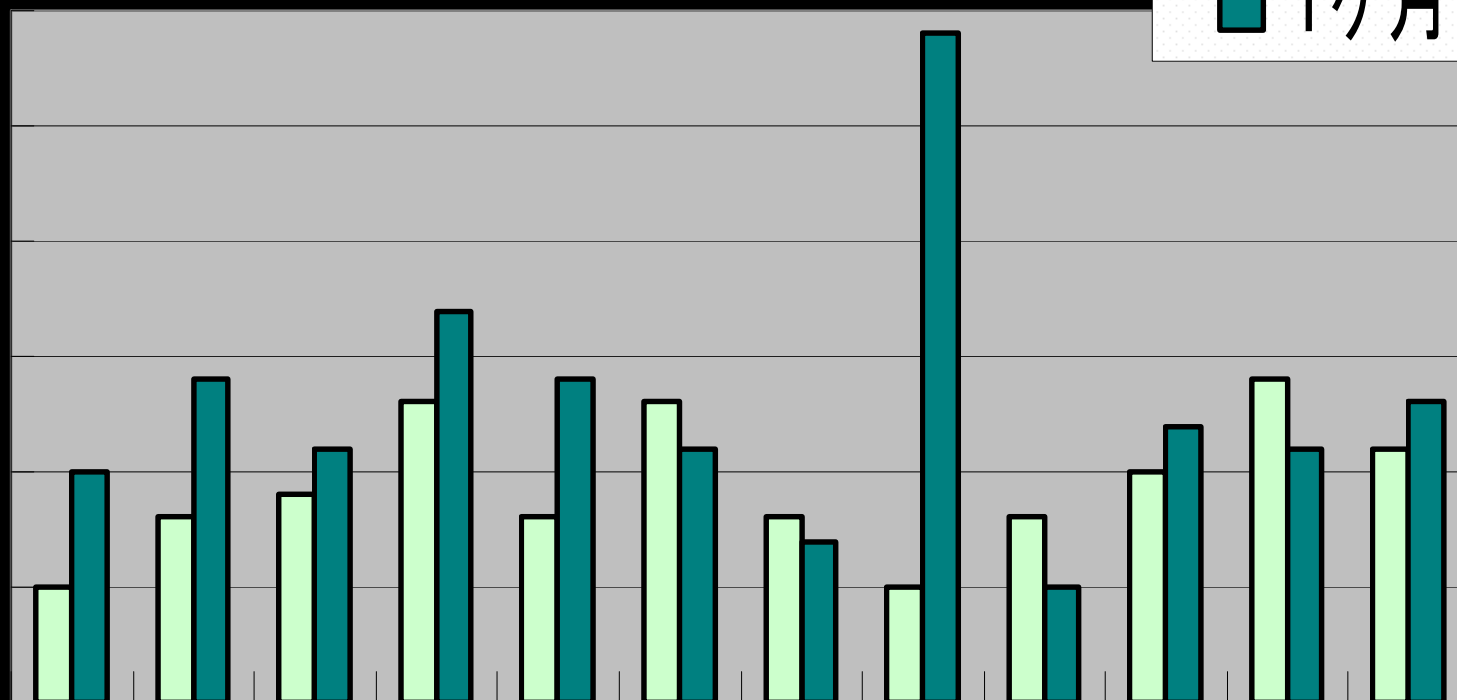
回/30秒

椅子からの立ち座り回数

□ 初回

■ 1ヶ月後

30
25
20
15
10
5
0



YF(F) TY(F) MM(F) HT(F) AT(F) TT(F) AS(F) HM(F) FR(M) NA(M) YT(M) KS(M)

表1

対象者	年齢	初回	1ヶ月後	初回	1ヶ月後	初回	1ヶ月	初回	1ヶ月	初回	1ヶ月
		筋力 R(Kg)	筋力 R(Kg)	筋力 L(Kg)	筋力 L(Kg)	片脚起立 R(秒)	片脚起立 R(秒)	片脚起立 L(秒)	片脚起立 L(秒)	椅子からの 立ち座り回数	椅子からの 立ち座り回数
YF(F)	85	4	2	2	5	1	0	1	0	5	10
TY(F)	85	7	12	9	10	12	5	20	35	8	14
MM(F)	72	10	10	16	11	15	13	11	6	9	11
HT(F)	66	16	24	14	24	18	3	22	50	13	17
AT(F)	77	17	24	17	20	19	18	10	52	8	14
TT(F)	70	6	10	8	13	27	22	12	14	13	11
AS(F)	77	10	10	7	12	32	6	14	1	8	7
HM(F)	54	13	20	14	28	60	60	60	60	5	29
FR(M)	85	5	4	6	9	1	2	2	2	8	5
NA(M)	66	16	32	11	34	1	2	3	1	10	12
YT(M)	72	18	26	12	29	20	37	10	15	14	11
KS(M)	48	25	21	43	25	60	60	15	60	11	13
平均	71.42	12.25	16.25	13.25	18.33	22.17	19.00	15.00	24.67	9.33	12.83

まとめ

- 1, 腰痛、膝痛を主訴に来院しリハビリテーションを行った12名を対象に調査した
- 2, 調査期間は1ヶ月間と短期間であったがSETの効果が見られた
- 3, 膝伸展筋力と椅子からの立ち座り回数にSETの効果が見られた
- 4, 片脚起立時間はSETの効果が少なかった
- 5, その原因として片足だけでの体重維持が可能なまでには回復していないことが考えられた
- 6, 考察として脊柱管狭窄症や脊椎圧迫骨折のように運動療法が困難な症例の場合にもSETによるリハビリテーションは可能と考えられる